

横浜市立港北小学校（神奈川県）



1. 地域特性

港北小学校は横浜市中心部から数駅離れた住宅地に立地する。周囲は起伏に富んだ丘陵地で、学校も斜面上にある。敷地の地形は複雑で校舎と校庭に大きな高低差がある。保護者や地域と良好な関係が結ばれている。

2. 事業の経緯



2人の教員が教室のドアを取り払いオープン化を試みた

5期にわたり、普通教室のオープン化から全校の改修へと継続的・発展的に事業が展開した例である。平成10年に2人の教員が教室の壁を取り払い、オープン化を試みたことが出発

点となった。翌11年には横浜市教育委員会ゆめはま教育プラン推進事業「学びの環境整備」モデル校となり、全校にわたる一連の改修となった。校長、事務職を含む教職員、地域代表、PTA代表から構成される「施設改修プラン会議」が設置され、対話型設計により改修計画が進められた。改修の基本方針は、①普通教室のオープン化、②学校を中心を作る、③木質空間と家具の工夫の3点だった。結果として4年間5期の長期にわたる継続的改修となった。

- 第1期（平成11年度）：分散型図書室の改修
 - 第2期（平成12年度）：普通教室のオープン化、階段室改修
 - 第3期（平成12年度）：特別教室（メディアセンター、理科室、造形ルーム）改修
 - 第4期（平成13年度）：特別教室（音楽室、スタジオ）改修、階段室・トイレ改修
 - 第5期（平成14年度）：管理諸室・地域ふれあいの部屋改修
- ※一部の棟は、同時期に耐震補強を実施しているが、今回の事業とは別に実施



2教室の境は透明アクリルの折れ戸



分散型図書室（チャレンジルーム）



児童との交流の場となる教師コーナー



メディアセンター

3. 事業の内容

○教室のオープン化

改修によって、教室と廊下間はすべてオープンになった。構造上の理由で壁を取り除けない箇所を除き、教室間も透明のアクリル折れ戸でつながれた。黒板が必要に応じて動き間仕切りのように使える等、教室内のしつらえにもフレキシビリティを向上させる工夫がなされている。教室の天井が木格子になったのをはじめとして、随所に木質仕上げが採用され、全体的に暖かい雰囲気になっている。

○学校全体が学びの場

図書やパソコンなどのメディアが、メディアセンターや分散型図書室や地域ふれあいの部屋を中心として、さらに廊下や教室の前など学校全体に分散して配置されている。これにより、いつでもどこでも本やパソコンなどが子どもたちの目に留まり、子どもたちの興味を引き出してくれる空間となっている。

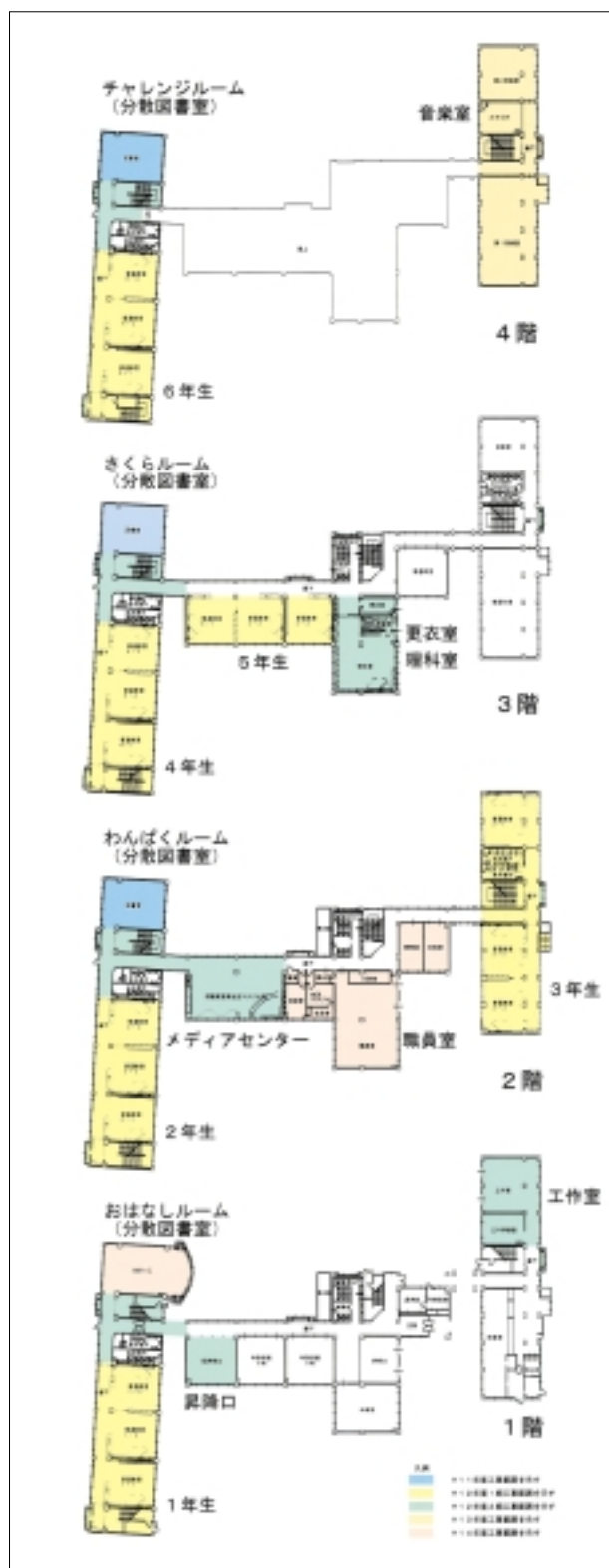
○気軽に訪問できる学校

地域の人々が学校を気軽に訪問できるように、1階にバリアフリー化し夜間開放もできるように区画を仕切ることのできる地域ふれあいの部屋が設けられた。地域の人々がよく利用することにより、学校と地域の人々とのつながりがより強くなるとともに、子どもたちと地域の人々との交流が生まれる場となっている。

4. 成果と課題

学校全体がオープンな学習空間となり、メディアが学校全体に分散して配置されたことで、学習形態が柔軟になった。既存施設の改修は、実物を見ながら詳細に検討できるのがメリットである。少しずつ時間をかけて学校全体を改修していくという、現実的かつ理想的なあり方を示した事例である。

事業が実を結んだ背景には、学校環境を自らの手で変えていこうとする教職員の強い意志があったことが大きい。地域住民が学校に継続的に関わり、新規の教職員に対して当初の志を継承していくことも必要である。



各階平面図（改修後）